

2025 ANNUAL ACTIVITY REPORT

認定NPO法人 ふれいす東京
2025年度年間活動報告書



2025 ANNUAL ACTIVITY REPORT



今、再び、エイズ発症予防を誰に、 どのように呼びかけるのか？

2026年1月、私たちは1本の歴史アーカイブ動画を公開しました。「サバイバーのストーリー～延命が困難だった90年代初期、HIVの告知を受けて～」と題したこの動画は、90年代初頭にHIV陽性の告知を受けた当事者たちの貴重な肉声を記録したものです。

私は1993年、HIV陽性者のグループとともにディズニーランドを訪れたことがあります。当時20代から30代だった5人のうち、3人はすでに亡くなっています。薬害エイズ訴訟の和解前であり、障害認定の制度も存在していませんでした。また、海外で承認された薬剤が国内で使用可能になるまでには、年単位のタイムラグがありました。この状況が改善されたのも、薬害訴訟の原告の方々の闘いによるものです。

当時の陽性者たちが抱えていた問題は、医療費のことだけではありませんでした。AZTなどの単剤治療を開始しても、いずれ薬剤耐性が生じること、そして次の薬剤の開発が間に合わなければ、文字どおり「次の手がない」という状況に追い込まれる——そうした深刻な心理的プレッシャーの中で生きていました。それでも彼らは海外の情報を自ら入手し、時に渡航してまで、自らの命をつなぐための行動を取り続けていました。

あれから30年。抗HIV薬の進歩は目覚ましく、服薬は簡便になり、副作用も大幅に軽減され、長期にわたって体調をコントロールできる時代になりました。治療によって血液中のウイルス量が検出限界以下に抑えられた状態では、コンドームを使用しない性行為でも性的パートナーへの感染は起こらない——いわゆるU=U (Undetectable = Untransmittable) —が科学的に証明されています。かつては人工授精に頼ら

ざるを得なかったHIV陽性者を含むカップルも、自然妊娠という選択肢を持てる時代になりました。HIVをめぐる医療の現実、かつての「死に至る病」というイメージから大きく塗り替えられています。

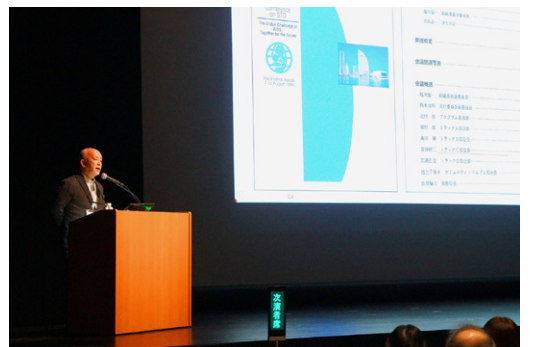
しかし、HIV検査・診断の現状を見ると、楽観はできません。東京に近い千葉県や埼玉県でさえ、エイズ発症によって初めてHIV感染を知る人が半数近くを占め、沖縄県ではその割合が6割を超えています。医療がこれほど進歩した現在でも、なぜこれほど多くの人が、発症という形でしか感染に気づけないのでしょうか。

その背景には、地域ごとに異なるHIV検査環境に加え、情報が届かない人たちの存在があります。HIV陽性と診断される男性の中には、コミュニティや商業施設との接点をほとんど持たない、比較的年齢層の高い人たちが少なくありません。例えば、同性と性行為をする人であっても、必ずしもゲイ男性として生きているとは限りません。表向きは異性愛者として生活しながら、HIVに関する情報ネットワークを遮断して暮らしている人たちが存在します。紙媒体のゲイ雑誌が姿を消した現在、その情報ルートも失われ、HIVに関する情報が1990年代で止まったままという人がいることも、沖縄在住の当事者たちのヒアリングから聞こえてきます。

私たちは今、誰に、何を、どのように伝えるのかを、根本から問い直す時期に来ています。過去の歴史に学びつつ、今の課題に対する解決策を、皆様とともにこの1年考えていければと願っています。

認定NPO法人ぶれいす東京 代表

生島 嗣



もくじ

ごあいさつ

「今、再び、エイズ発症予防を誰に、
どのように呼びかけるのか？」…………… 2

2025年度の実績…………… 5

2025年度のハイライト…………… 6

30周年記念事業

歴史アーカイブ&コンセント…………… 8

部門報告

ホットライン…………… 11

Sexual Health Project…………… 14

Gay Friends for AIDS…………… 17

ネスト…………… 19

ボディ…………… 24

相談…………… 26

研究・研修…………… 30

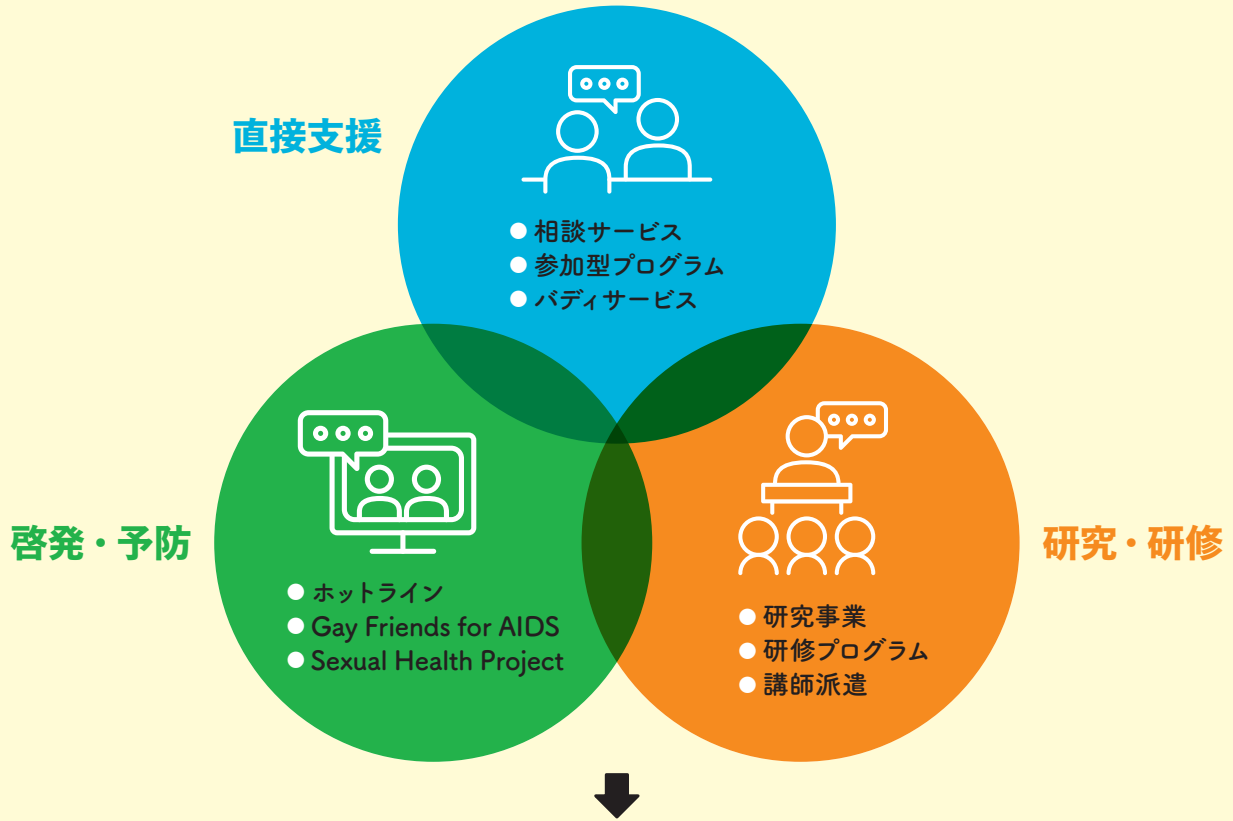
事務・総務…………… 32

寄付のお願い…………… 35

2025年度の実績

ふれいす東京は、HIV/エイズとともに生きる人たちが自分らしく生きられるように、多様な活動を展開しています。

活動の柱



活動実績

感染不安電話相談

4,703件

ゲイ向け電話相談

112件

ブース出展

18回

メディア掲載

189件

陽性者向け電話相談

1,137件

対面相談

238件

ネスト・プログラム

595人

バディ派遣

85件

アディクション・ぼーと

184人

講師派遣 受講者数

3,605人

公式サイトなど

419,320PV

関連YouTube 再生数

29,862回

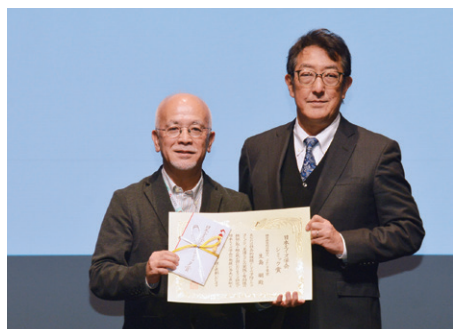
X (旧Twitter) インプレッション数

330,457回

2025年度のハイライト

HIGHLIGHT 1

生島嗣代表 エイズ学会賞（シミック賞）を受賞



第39回日本エイズ学会（熊本）において、ふれいす東京代表の生島嗣がエイズ学会賞を受賞しました。「社会的課題としての予防とケア コミュニティ主導の実践と検証」が受賞理由です。抗ウイルス剤による治療と予防で医療的対応がエイズ対策の主流と言われそうな昨今ですが、人から人への感染症は人間関係、個人の意識や態度、社会の仕組みや価値観などが絡み合う極めて社会的な病であり、予防もケアもコミュニティの有効な関与なくしては成功しません。生島代表

は受賞記念講演で過去30年間のコミュニティの取り組みと基礎や臨床との協働を通して有効な関与とは何かを示してくれました。改めて、おめでとう！（報告：池上千寿子）

HIGHLIGHT 2

わたしたちの記憶 ～ HIV/エイズの歴史アーカイブ～



本プロジェクトは、日本のHIV/エイズ史における「個人の経験」を記録し、次世代へ語り継ぐ活動です。1990年代半ば、画期的な治療法（HAART）が導入されるまで、エイズは死に直結する病でした。その過酷な時代に、人々は何を思い、どう動いたのか。社会の偏見に抗い、ケアの仕組みを築いてきた原動力は、一人ひとりの「何かを変えたい」という切実な願いでした。

現在、7名の貴重な語りを公開しており、今後も対話を重ねながらコンテンツを増やしていく予定です。報告書や統計だけでは見えない当時の情熱を可視化し、コミュニティの歩みを未来へつなぐ。そんな「希望のバトン」のようなアーカイブを目指しています。（報告：生島 嗣）



HIGHLIGHT 3

コンセント・プロジェクト「つながり」を力に



昨年度に続き、北海道から九州まで全国計10都市のプライドイベントを巡り、各地のコミュニティや専門家とつながりを築いてきました。

その協力のもと、実施されたのが「PRISM調査」です。2,794名もの当事者の声が集まり、中間

報告が多くのメディアに報じられると、大きな反響や関心が寄せられました。

また、調査から医療従事者への啓発の必要性が見えたことで、専門家と協力し「日常診療・支援に活かすLGBTQ+とHIVの基礎知識」という入門動画を制作しました。視聴者数は年度末時点で8,000人を超え、現在も無料公開中です。

今後も「つながり」を大切に、新たな企画を展開していきます。引き続き応援をよろしくお願いいたします。(報告：原田明裕)



HIGHLIGHT 4

コミュニティが語る日本のHIV/エイズ 課題と希望

2025年6月、Tokyo Pride 2025前日にコミュニティセンターや全国ピア・サポート円卓会議のメンバーなど全国から18団体約50名が集まり、コミュニティセンターaktaで語り合う機会を持ちました。当日は一般のakta利用者や他のコミュニティの方も参加。各地の実践報告と意見交換を通じて、地域を超えたピアサポートとコミュニティセンターの協働ネットワークが形成されました。

翌日のパレードでは“We are positive”を掲げ、陽性者15名を先頭に250名が行進し、“U=U”のメッセージを発信しました。現状の課題や今後の協力を対面で感じ合った熱量は、全国の仲間とともに歩み続ける力になっています。(報告：大島 岳)

HIGHLIGHT 5

TOKYO AIDS WEEKSで新たな試み、 『カミングアウトジャーニー』 上映&合唱ミニコンサート



映画『カミングアウトジャーニー』は、セクシュアリティやHIV、依存症についてカミングアウトする主人公の旅を追ったドキュメンタリーです。その後の『結婚編』と合わせ、2本の上映会が全国各地で開催されるなか、TOKYO AIDS WEEKS 2025でも東京とエイズ学会開催地の熊本で上映会を主催しました。上映後には出演の福正大輔さんとパートナーぽんつくさんらによるトークショーが催され、いずれの会場も大盛況でした。

東京での上映会の後には、前年に復活した合唱ミニコンサートも開催。合唱を聞きにきて映

画も見た方、その逆の方など、初めての方も楽しめたのではないのでしょうか。全国各地から集まった多様なメンバー59人で想いを込めた合唱をお届けしました。会場内では涙する姿も見られました。(報告：加藤力也)



当日の演奏の様子はwebサイトからご覧いただけます。

記憶をつなぐ 「HIV/エイズの歴史アーカイブ・プロジェクト」始動

～ 証言映像や記録を集めた特設サイトがオープン～

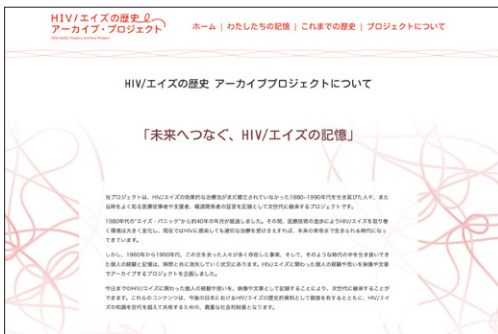
HIV/エイズをめぐる1980～1990年代の経験と記憶を次世代へ継承することを目的に、証言映像をまとめたサイト「歴史アーカイブ・プロジェクト」を2026年1月6日に公開しました。「ぶれいす東京」設立30周年記念事業の一環である当プロジェクトは、特設サイトより、どなたでも無償でご視聴いただけます。

公開映像は、HIV/エイズの効果的な治療法がまだ確立されていなかった時代を生き延びた人々、当時をよく知る医療従事者や支援者、報道関係者の証言を記録しています。今回はぶれいす東京の活動に深く関わってきた方々の証言を中心に収録。より鮮明に、より詳細に残された当時の記憶が、今を生きる私たちの想いととも次世代に受け継がれていくことを願っています。



公式サイト

<https://ptokyo.org/history-archive/>



現在、下記の7本のインタビュー映像を公開中です。

1. 「サバイバーのストーリー」～延命困難だった90年代初期 HIVの告知を受けて～
90年代にHIV陽性の告知を受けた2名の方のインタビュー
2. 「ぶれいす東京設立と横浜国際エイズ会議開催～1994年を振り返る」
出演：池上千寿子（認定NPO法人ぶれいす東京 理事）
3. 「社会的病としてのエイズとその対策～混沌から共存への歩み～」
出演：同上
4. 「社会的病としてのエイズとその対策～1996年以降の歩み」
出演：同上
5. 「HIV/エイズ医療現場の最前線で活動してきたことを振り返って」
出演：根岸 昌功（ねぎし内科診療所 院長）
6. 「HIV/エイズの歴史をジャーナリストの視点から振り返る」
出演：宮田一雄（ジャーナリスト）
7. 「HIV/エイズに関するこれまでの歴史（1981年～2000年）」
出演：同上

プロジェクトの目的・背景

1980年代の”エイズ・パニック”から約40年の年月が経ちました。その間、医療技術の進歩によりHIV/エイズを取り巻く環境は大きく変化し、現在ではHIVに感染しても適切な治療を受けさえすれば、本来の寿命まで生きられる時代になってきています。その歓迎すべき変化の一方で、1980年から1990年代の効果的な治療法が確立されない中、命を落とした人が多く存在したという事実、その渦中を生き抜いてきた人々の経験と記憶は、時間と共に消失していきつつあります。このような状況を変えるべく、

HIV/エイズに関わる個人の経験や記憶、そして思いを映像や文章でアーカイブするプロジェクトを立ち上げました。

今日までのHIV/エイズに関わった人々の記憶や思いを、映像や文章として記録することにより、次世代に継承することができます。これらのコンテン

ツは、今後の日本におけるHIV/エイズの歴史的資料として価値を有するとともに、世代を超えてHIV/エイズの記憶を共有するための貴重な社会的財産となり得ることでしょう。

(文責：生島 嗣)

コンセント・プロジェクト (CONSENT PROJECT) LGBTQ+ コミュニティへ情報発信 「コンセント・プロジェクト」

「コンセント・プロジェクト」は、日本のLGBTQ+コミュニティに向けた最新のセクシュアルヘルス情報の発信と、サポートの提供を目的として立ち上げられました。プロジェクト2年目となる2025年度は、1年目に築いた基盤を活かし、具体的な解決策を創出することに努めました。

2年目の大きな成果の一つは、「つながり」をさらに広げられたことです。昨年の倍以上となる全国10都市（東京、札幌、金沢、名古屋、岡山、広島、高松、愛媛、福岡、沖縄）で、プライドイベント等にブースを出展しました。

また、東京周辺のクラブイベントや大学祭にも参加し、従来の枠組みを超えて、幅広い層へ「PRISM調査」の周知やセクシュアルヘルスの啓発を行いました。各地でのコミュニケーションは、プロジェクトの認知度を高めるだけでなく、地域ごとの課題を直接把握する貴重な機会にもなりました。



「PRISM調査」で2,794名から回答

各地での対話や専門家との協議を重ねた結果、より広範なニーズの収集が必要という結論に至り、コミュニティ主導の全国調査「PRISM調査」を実施しました。

6月から9月にかけて行ったこの調査は、全国の支援団体や個人、インフルエンサーによる広報協力もあり、2,794名もの回答（有効回答2,327件）を集めることに成功。日本におけるLGBTQ+当事者の医療格差や、受診控えの現状に関するデータはこれまで極めて限定的であり、本調査は今後の日本の医療環境を変えるための重要な基礎データとなり得ます。

9月には厚生労働省にて記者会見を行い、中間報告を公表しました。メディアやSNSで大きく取り



上げられたことで、当事者を取り巻く医療アクセスの課題が社会問題として可視化されました。

医療従事者向け啓発動画の制作、 視聴者アンケートで手応え

PRISM 調査から浮き彫りになった「医療現場における無理解やスティグマ」という課題に対し、医療従事者・支援者および学生を対象とした啓発動画コンテンツを制作しました。内容は、医師や各専門家による講義9本と、LGBTQ+ 当事者やHIV陽性者によるインタビュー2本で、実践的な内容になって

**日常診療・支援に活かす
LGBTQ+とHIVの
基礎知識 入門動画**

LGBTQ+の方が安心できる診療環境を整えるために、医療者・支援者として知っておきたい基礎知識や対応が学べる入門動画を制作しました。医療アクセスの改善や性の健康（セクシュアルヘルス）への理解を深める内容です。

全10プログラム 無償 入門動画ダイジェストを公開中
医療者・支援者として知っておきたい基礎知識や対応のポイントを解説

います。

医学系学会に向け戦略的な広報を行ったことで、のべ8,017名の視聴を記録。「これまで知る機会がなかった具体的な配慮事項を学べた」「自らのクリニックでも安心して受診できる体制を整えたい」といった前向きな声が視聴者から多数寄せられ、医療者の意識変革に直接寄与することができました。

今後も全国の「つながり」をさらに深化させるとともに、2年間の活動で得られた成果をもとに活動を継続していきます。活動を支えてくださった全国の団体・個人の皆様、ならびにご支援を賜りましたMSD日本法人様に心より感謝申し上げます。

(文責：原田明裕)

このプロジェクトは、メルク・アンド・カンパニー（MSD株式会社）のSolutions for Healthy Communitiesプログラムからの助成をもとに、実施しました。

Topic! 相談件数と広報活動、結びつける工夫を

HIV/エイズに関する感染不安や疑問がある方に向けて、トレーニングを終了した相談員が、電話で相談を受け、情報提供をしています。

窓口は、平日も加わり毎日相談を受け付けるようになって6年目になりました。毎日体制になった2020年度からの件数の推移は順に、5,692件、

5,477件、6,391件、7,566件、8,123件、4,703件です。2025年度は、この6年間で最も少ない件数で、前年度のおよそ半分になってしまいました。広報活動がなぜ実らなかったのか、検証する必要があります。

Outline 2025年度の相談状況 年々増える女性相談者の割合

「東京都HIV/エイズ電話相談（平日／夜間／休日）」（東京都委託事業）

この相談は東京都から委託を受け、2020年1月から「ぷれいす東京」が単独で行っている事業です。

相談実績（2025年4月1日～2026年3月31日）

年間活動日数 … 359日間
 総相談時間数 … 2,535時間／のべ5,070時間
 活動スタッフ数 … のべ1,660名
 年間相談数 … 4,703件（男性3,877件／女性824件／不明2件）
 うち陽性者86件／確認検査待ち25件／
 陽性者周囲16件／確認検査待ち周囲3件

月別相談件数〈東京都〉

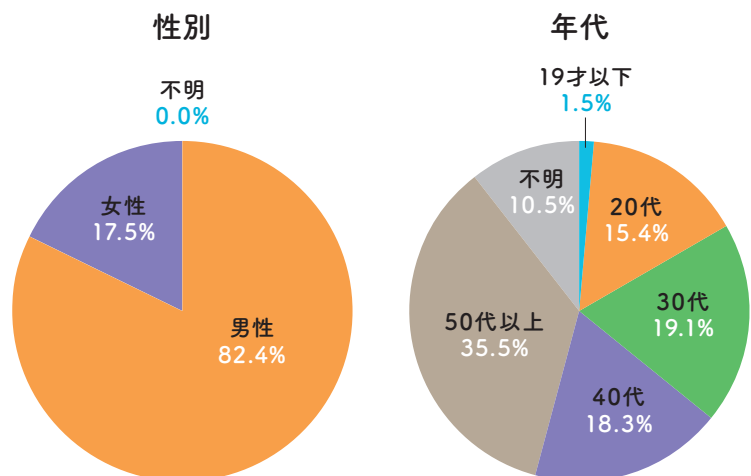
今年度の相談件数は4,703件（昨年度：8,123件）で3,420件の減少。

相談者の内訳〈東京都〉

性別は、「男性」82.4%（昨年度：83.9%）、「女性」17.5%（同：16.1%）、「不明」0.0%（同：0.02%）でした。今年度は女性の割合が増加。

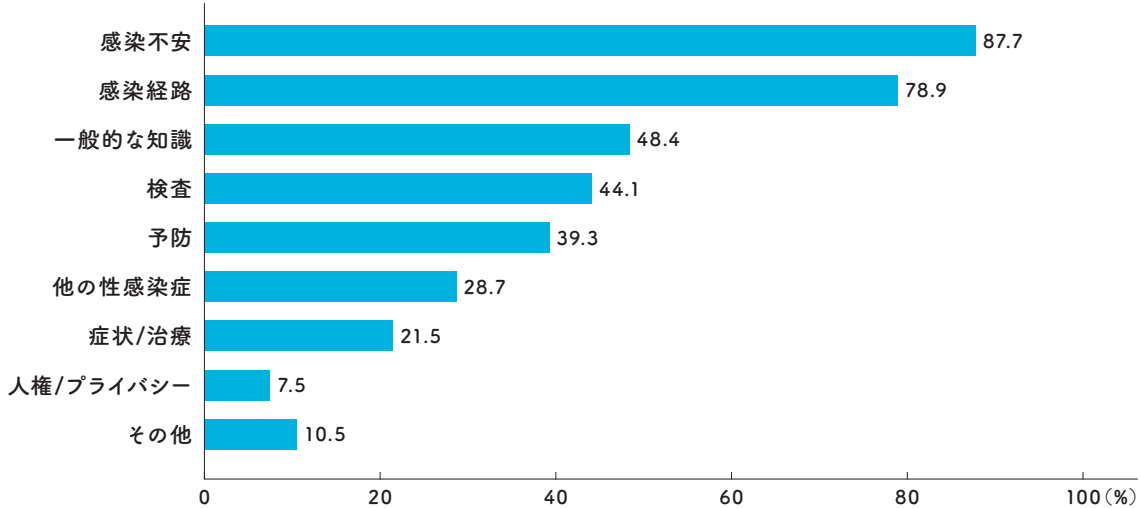
年代は「50代以上」35.3%（同：39.3%）、「30代」19.1%（同：15.7%）、「40代」18.3%（同：16.6%）、「20代」15.4%（同：15.3%）、「不明」10.5%（同：11.8%）、「19才以下」1.5%（同：1.3%）の順でした。

「50代以上」だけが減少し他はほぼ横ばいで、この年代のリピーターが減少したのが原因でしょう。



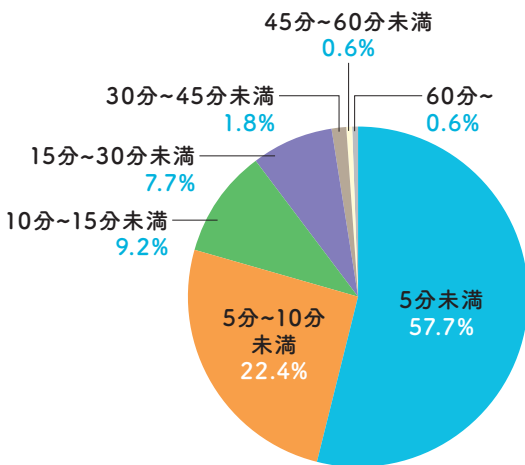
相談内容 2025年4月～2026年3月（複数回答あり）〈東京都〉

相談内容の内訳は、「感染不安」が87.7%（昨年度：88.1%）で最も多く、「感染経路」が78.9%（同：82.3%）、「一般的な知識」48.4%（同：46.4%）、「検査」が44.1%（同：39.3%）と続きました。



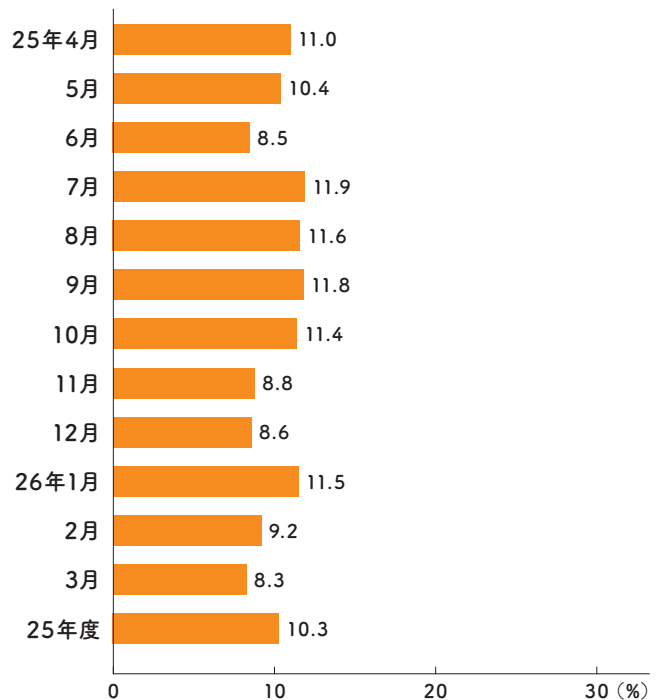
相談時間 2025年4月～2026年3月 〈東京都〉

10分未満の相談は79.7%（昨年度：80.1%）と半数以上を占めました。全体の97.6%（同：97.0%）が30分以内に収まり、60分以上の相談は0.4%（同：0.6%）で、昨年度とさほど変化はありませんでした。



回線占有率 2025年4月～2026年3月 〈東京都〉

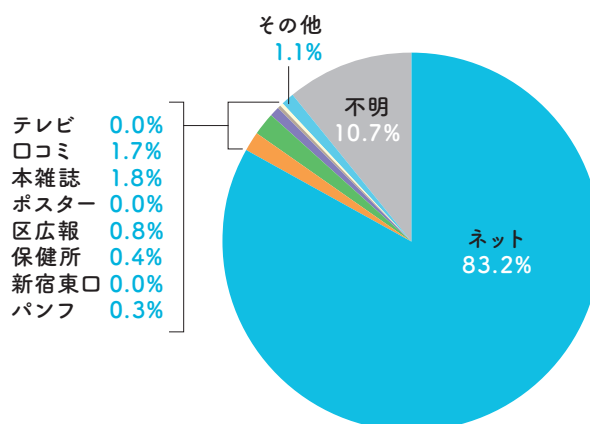
算出方法：総通話時間／総相談時間（超過は分母に加算）
今年度の回線占有率は10.3%（昨年度17.5%）と減少しました。



情報源〈東京都〉

「インターネット」は全体の83.2%（昨年度：83.8%）、続いて「不明」10.7%、「その他」1.1%、「口コミ」1.7%、「本雑誌」1.8%、「保健所」0.4%、「パンフ」0.3%、それ以外は0.8%未満でした。

「インターネット」の3,913件の内訳は、「ホームページ」245件（6.3%）、「検索」3,653件（93.4%）、「不明」7件（0.2%）、「アプリ」3件（0.08%）、「SNS」1件（0.03%）、「その他」4件（0.1%）でした。



他県割合

東京都外からの相談は2,802件（昨年度：5,017件）で、全体の59.6%（同：61.8%）を占めました。

陽性者及びその周囲への対応〈東京都〉

HIV陽性者からの相談は86件（昨年度：139件）、確認検査待ちは25件（同：28件）、陽性者周囲の相談は16件（同：36件）、確認検査待ち周囲の相談は3件（同：3件）でした。東京都の相談における陽性者等の相談率は、0.02%（同：1.7%）となりました。

Topic! 孤立せず、自分らしく、ともに生きられる社会へ

SHプロジェクトの活動を端的に表すと「性の健康を軸に、当事者が孤立せず、自分らしく生きられる社会をつくるプロジェクト」です。2021年からの活動を振り返ると、このようになります。

- **性の健康に関する学びの機会を提供**：HIV陽性者や周囲の人が抱える不安、生活課題、メンタル面の悩みにフォーカスした研修やイベントを企画、運営しました。
- **当事者コミュニティの運営・サポート**：LGBTQ+やHIV陽性者、違法薬物等の依存症者が安心して語

り合える場づくり、イベント企画、オンライン配信などを通じて「つながり」をつくりました。

- **予防啓発・情報発信**：地域の保健所やCBOとともに性の健康、HIV、薬物使用、メンタルヘルスなどに関する正確で実践的な情報を発信し、社会の理解を広げてきました。
- **当事者の声を社会へ届ける活動**：手記・対話・イベントなどを通じて、当事者のリアルな経験を可視化し、偏見や孤立を減らす取り組みを行いました。

Outline 色とりどりの催しに連帯感も増して

Tokyo Pride 2025 パレードとブース

Tokyo Pride 2025において、地域NGO・製薬企業・行政・研究者らが協働し、3年目の「#Update HIV」フロートを展開しました。250名がU=UデザインのTシャツと赤いトートバッグを身につけるなど高い視認性を得て、コール&レスポンスを沿道に力強く届けることができました。HIV陽性者が中心となった企画は、約15名の陽性者が先頭に並ぶ歴史的な構成。装飾や音響は改善され、ボラ

ンティアの協力で準備も円滑に進みました。一方、集合場所の混乱、歩行速度、支援が必要な参加者への配慮、メッセージの分かりやす

さなどが課題として浮きぼりに。今後は、テーマ刷新や運営体制、アクセシビリティ向上を検討しつつ、継続的な改善が求められます。



学園祭・地域イベントへの貢献

ふれいす東京は2024～2025年に、若い世代へのHIV・性の健康啓発を強化しました。みなと保健所と協働した大学学園祭（国際医療福祉大学、北里

大学）には、学生・保護者ら計約210名が参加し、クイズや対話を通じてPrEPやU=Uなど最新情報を直接伝える機会となりました。スタッフと保健所が補完し合う体制を確立でき、当事者の声を届ける意義も認められました。

また「こどくに踊るクイアのつどい」では、孤立しがちな当事者が安心して語り合える場を創出し、池袋AIDSフェスでは地域住民へ広くHIVへの理解

を促しました。これらの活動は、啓発を「自分ごと化」し、検査・予防・共生をつなぐ実践モデルとして大きな成果を示したと思います。

日本エイズ学会報告／TOKYO AIDS WEEKS 2025「語ろう」

第39回日本エイズ学会で、SHプロジェクトから保坂さんが、薬物・アルコール・性などの依存を抱える人々を支える「アディクション・ぽーと」の実践と意義を報告しました。HIV陽性者やLGBTQ+当事者が孤立しやすい背景を踏まえ、安心して語り合える場づくり、当事者同士のつながり、場で生まれるピアサポートの重要性を強調。依存とHIVを切り離さずに包括的に支えるモデルの意義を伝えました。

また、Tokyo Pride 2025での「#UpdateHIV」フ

ロート企画を題材に、HIV啓発を可視化するアプローチを福正さんが紹介しました。U=UやPrEPについて当事者が自ら発信することで偏見を減らし、若い世代への理解を広げる効果を報告。行政・企業・市民団体が協働することで啓発につながる実践モデルを示しました。

11月15日～12月15日まで開催されたTOKYO AIDS WEEKS 2025では、初日に動画配信を行いました。出演したShinさんは「12/1の世界エイズデーにあわせ全国でこんなにも魅力的なイベントが企画され、盛り上がっているのかと嬉しくなった」と語り、イベントへの参加を呼び掛けていました。

ぽーと、パートナーズ、スタディ

アディクション・ぽーとは月に1回、オンラインでの居場所づくりを継続しています。毎回5～10名程の方々がさまざまな背景をもって参加し、生活、仕事、恋愛、性の問題など多様なテーマについて、互いに質問し合ったり、アドバイスを求めたりなど、他の自助グループにはないユニークな活動をしています。

2025年4月から、アディクション・ぽーと・パートナーズ（LGBTQ+のアディクトのパートナーや家族のための居場所）のイベントを適宜開催してきました。必要性を感じている人もいますがな

かなか周知が難しいため、しばらくお休みとなっています。

アディクション・スタディは、高橋悠さん、倉田めばさん、ヒロさんが依存症の仕組み、回復のプロセス、セクシュアリティとの関係を等身大で語り、孤立からつな

がりへの転換、自助グループの力、多様な回復のあり方を共有する深い学びの場となりました。「回復に殺されない」（回復への強迫観念による苦しみを防ぐ）というメッセージは参加者に深く響いたと思います。

TOKYO AIDS
アディクション・ぽーと・パートナーズ企画イベント！
LGBTQ+と家族の限定スピーカーミーティング
「家族やパートナーが依存症でした」

＜ご案内＞
2025年11月21日(金)
19:00-21:00
オンラインZoom
参加対象：LGBTQ+で
依存症者のパートナーや家族

申込フォーム
QRコード

※NPO東京のSexual Healthプロジェクトが運営する、アディクション・ぽーと・パートナーズが2025年12月から家族も参加できるイベントとして、3名～4名のスピーカーの体験談を聞き、オンラインZoomで参加型イベントを開催します。ご参加の方は、ご参加の詳しいフォームに詳細なルールを記載しています。

参加費：無料
お問い合わせ
sh@ptokyo.org

第4回 仲間がいれば 回復できる。
アディクションスタディ

日時 2026年 3/8【日曜】13:30～16:30
開催方法 オンライン開催 (ZOOM利用)
講師 (予定)

高橋悠 倉田めば ヒロ
依存症の仕組みを解説 家族への対応と支え方 ぽーと・パートナーズの活動紹介
「回復に殺されない」の強迫観念による苦しみを防ぐ メッセージの重要性

ふれいず東京では、アディクション経験のある人への回復の場をつくりだすために、「スタッフとして参加したいが経験がない」「オンラインについて不安な」「参加費が心配」「参加費が払えない」「HIV/AIDSの経験や知識に自信がない、行儀やNGの方、苦しくて参加できない」

申し込み <https://forms.gle/hJ46g8NHQsJcZVCZ7>

Step! ラジオに挑戦、せきららトークにも期待

2026年度は、前年からの活動の継続とともに、幅をひろげて音声メディアでの発信に取り組みたいと考えています。今、若い世代にアプローチできるツールとして注目されているのが音声メディアです。番組名は「Living Together ラジオ」。日本各地で暮らすHIV陽性者が好き勝手にしゃべるというプログラムで、「家を買った話」から「保険やお金の話」まで、なかなか聴けない銭ゲバトークを展開してい

きます。月に1回、毎月10日の配信を予定。

また、アディクション・ぽーとの新しい集まり「お金にまつわるアディクション・ぽーと」を偶数月の第2金曜日に開催。お金の遣い方に困っている人がたくさんいることを受けて、ギャンブル依存症や買い物借金依存症の仲間とともに立ち上げました。SHプロジェクトでは、常に新しい発信方法やピアな仲間が出会える場を模索していきます。



2026
06
12
FRI

ONLINE
**お金に
まつわる**
addiction ぽーと

ギャンブルや買い物などお金に関する依存で
LGBTQ+の語り場が生まれました！

事務局：特定非営利活動法人ぶれいす東京

19:00
|
20:30
途中退室OK



Topic! リピーター層に変化？ ゲイが答える電話相談

トレーニングを受けたゲイの電話相談員が、ゲイ・バイセクシュアルの人たちに向けて、無料・匿名の電話相談を受けています。HIV/エイズのことや他の性感染症、セクシュアル・ヘルスやセクシュアリティまで相談が可能です。

2025年度の相談件数は、相談時間とともに前年度より若干減りました。これまで多かった50歳代の特定のリピーターたちからの相談が減った一方で、また別の年代不明のリピーターが大幅に増えました。リピーター層の入れ替わりについての理由は分かり

ません。

今回もまた、男性に性的興味を持った人からの相談が増えました。また、年に数件ではありますが、異性愛者の男性／女性、トランスジェンダー、ノンバイナリーからのHIV以外の相談もあります。今後には備え、しっかり勉強し知識をアップデートしていく必要を感じています。

イベントについては、Sexual Health Project部門と連動しながら、Tokyo Pride 2025やTOKYO AIDS WEEKS 2025に参加しました。

Outline 電話相談から見える傾向

2025年度活動記録

実施日 … 毎週土曜日 19時～21時

年間相談活動日数 … 51日（2024年度：52日）

電話相談活動時間数 … 102時間（2024年度：104時間）

相談体制 … 相談員5名（兼務シフト担当1名）

年間相談件数 … 112件（うち陽性者等の相談4件）

（2024年度：相談件数116件、うち陽性者等5件）

ろう者ゲイ（聴覚障がい者）のメール相談 … 0件

2025年度相談

全般：2025年度の年間相談件数は前年度と比べ4件減少しました。

月	2025年度			（参考）2024年度		
	相談件数 （件）	実施日数 （日）	平均件数 （件）	相談件数 （件）	実施日数 （日）	平均件数 （件）
4月	10	4	2.50	6	4	1.50
5月	10	5	2.00	6	4	1.50
6月	6	4	1.50	14	5	2.80
7月	9	4	2.25	7	4	1.75
8月	10	5	2.00	21	5	4.20
9月	10	4	2.50	10	4	2.50
10月	13	4	3.25	7	4	1.75
11月	11	5	2.20	4	5	0.80
12月	10	4	2.50	5	4	1.25
1月	6	4	1.50	10	4	2.50
2月	9	4	2.00	13	4	3.25
3月	8	4	2.00	13	5	2.60
	112	51	2.20	116	52	2.20

相談時間：2025年度も、10分以内で終わる相談が約7割でした。なお、1件あたりの平均相談時間は9.78分で、前年度の10.52分と件数も時間も減少しました。

相談時間 （分）	2025年度		（参考）2024年度	
	件数	割合	件数	割合
～10	83	74.1%	77	66.4%
11～20	16	14.3%	21	18.1%
21～30	3	2.7%	8	6.9%
31～40	3	2.7%	5	4.3%
41～50	2	1.8%	2	1.7%
51～60	3	2.7%	2	1.7%
61～	2	1.8%	1	0.9%
合計	112	100.0%	116	100.0%

相談者の年代：2025年度は50歳代が大幅に減少。これは前年度の50代の特定のリピーターが来なくなったからだと思われます。今年は別のリピーターが多かけてきたので、年代不明が大幅に増加しました。

年代	2025年度		2024年度	
	件数	割合	件数	割合
10代	3	2.7%	3	2.6%
20代	6	5.4%	16	13.8%
30代	13	11.6%	7	6.0%
40代	11	9.8%	5	4.3%
50代	1	0.9%	32	27.6%
60代以上	0	0.0%	2	1.7%
不明	78	69.6%	51	44.0%
合計	112	100.0%	116	100.0%

相談電話の発信地域：2025年度も年代と同じく特定のリピーターが多く、不明が増加しました。

地域	2025年度		2024年度	
	件数	割合	件数	割合
東京	10	8.9%	21	18.1%
東京以外の関東	8	7.1%	24	20.7%
関東以外	15	13.4%	16	13.8%
不明	79	70.5%	55	47.4%
合計	112	100.0%	116	100.0%

相談者のセクシュアリティ：相談者のセクシュアリティは「ゲイ」からの相談が2割近くと減少。年代や発信地域の項目にも書きましたが、特定のリピーターかどうか区別がつかないのでこちらも不明が多くなりました。今年度も男性に性的興味を持った人からの相談が増えました。

区分	2025年度		2024年度	
	件数	割合	件数	割合
ゲイ	23	20.5%	80	69.0%
ゲイ周囲	0	0.0%	0	0.0%
既婚者・バイセクシュアル	5	4.5%	7	6.0%
男性に性的興味を持った	4	3.6%	9	7.8%
レズビアン	0	0.0%	0	0.0%
トランスセクシュアル等	1	0.9%	1	0.9%
異性愛者(男)	1	0.9%	0	0.0%
異性愛者(女)	1	0.9%	0	0.0%
不明	77	68.8%	19	16.4%
合計	112	100.0%	116	100.0%

相談内容について

2025年度と2024年度のHIVに関連する相談総件数は116件→112件と減少。特定の相談内容が減ったのではなく全体的に減少傾向でした。

	① 2025年度	② 2024年度	差分 (①-②)
総計 (HIV関連)	112	116	4
予防なしアナルセックス感染不安	7.4%	5.2%	2.2%
アナルセックス全般の相談	0.0%	0.0%	0.0%
アナルセックスとフェラチオ両方の行為の感染不安	2.1%	3.4%	-1.3%
予防なしフェラチオ感染不安	5.3%	6.0%	-0.7%
フェラチオ全般の相談	0.0%	0.9%	-0.9%
口内射精・飲精による感染不安	1.1%	0.0%	1.1%
その他の性行為の感染不安	12.8%	9.5%	3.3%
検査に関して	20.2%	17.2%	3.0%
予防の情報提供	19.1%	20.7%	-1.6%
他のSTI	10.6%	14.7%	-4.1%
感染経路等一般的知識・その他	21.3%	22.4%	-1.1%

Step!

「性」について知識をアップデート

年間で数件ですが、異性愛者の男性／女性、トランスジェンダー、ノンバイナリーからのHIV以外の相談もあり、この時間帯の相談窓口がないことによる影響も考えられます。

多様な相談に対応できるよう、HIVだけでなく、他のSTIやゲイ以外のセクシュアリティの知識を獲得する必要があると感じています。

Topic! ボランティア・スタッフとのさらなる協働

2025年度のネスト・プログラムのテーマは、ボランティア・スタッフとのさらなる協働の強化でした。これまでも多くのボランティア・スタッフに活動していただいておりますが、より自主的なプログラムへの関わりを促すべく、初めてボランティア・スタッフの交流会を2回開き、多くの有益な意見交換ができました。それをきっかけに、コロナ禍以降休止していた10代～30代の男性陽性者を対象とした「U40」を「YOUTH MTG」として2026年度よりリニューアル復活させることになりました。今後も定期的な意見交換の場を設定していく予定です。

プログラムに関しては、2025年度より「ゆる会」をスタートさせました。性別やセクシュアリティ・年代を問わず、ゆるく過ごす2時間を毎月提供するというものです。「カップル交流会」が復活、前年に再開した「もめんの会」共々、陽性者の周囲の方

が参加可能なプログラムの充実も図りました。

「専門家と話そう」では、動画配信「ストレスとの付き合い方、見つけてみませんか?」、行政書士の資格を有するパープル・ハンズの永易さんをお迎えした「老後と法律とお金のこと」を、陽性者以外の方も参加いただけるSpecialとして開催しました。「ピア+トーク」では、HIV陽性者の服薬などの支援ツールについて、提供する企業の話と実際に利用した陽性者のレポートという構成で「ポジティブジャーナル」を開催しました。(動画配信のアーカイブは、YouTubeふれいす東京チャンネルからご覧いただけます)

外国語を話す陽性者のプログラムは、英語と中国語を継続しています。2025年9月より英語ミーティングはオンライン開催からハイブリッド開催に切り替わり、さらに盛り上がりを見せています。



Outline 色とりどりのプログラム、新規も復活も

ネスト・プログラム（2025年4月1日～2026年3月31日）

スタッフ数（2026年3月31日現在）… 5名
 ネスト・スタッフ数（2026年3月31日現在）… 95名
 実利用者数… 178名（うち新規利用者数… 44名）
 のべ利用者数… 595名
 （うちピア・ファシリテーターなど積極的参加… 95名）

プログラム開催数… 82回
 （プログラム内容は以下を参照）
 ネスト・ニュースレター… 12回（月1回）発行

人材育成・研修

2025年度 ネスト・スタッフ研修修了者数… 5名

プログラム名	実施回数	のべ参加者 （ピア・スタッフ を含む）	スタッフ （ファシリテーター・ セクレタリーなど）	講師・ ゲストなど
グループ・ミーティング	47回	313名	50名	—
新陽性者ピア・グループ・ミーティング（PGM）	4回	10名	19名	—
ミドル・ミーティング（40才以上の男性陽性者）	11回	132名	11名	—
異性愛者ミーティング	12回	73名	12名	—
ゆる会	12回	74名	0名	—
クロスボーダー＋ミーティング	4回	10名	4名	—
もめんの会	4回	14名	4名	—
学習会/ワークショップ/セミナー	7回	92名	11名	30名
ストレス・マネジメント講座	3回	19名	3名	3名
就職支援セミナー	2回	39名	3名	24名
専門家と話そう	2回	34名*	5名	3名
交流会	19回	141名	25名	6名
介護・福祉職として働く陽性者のための交流会	5回	25名	5名	—
医療者（看護師）として働く陽性者のための交流会	5回	18名	5名	—
障害者枠で働く陽性者の交流会	6回	44名	6名	—
年末パーティ	1回	26名	5名	—
カップル交流会	1回	8名	1名	—
ピア＋トーク	1回	20名	3名	6名
小グループ・ミーティング、その他	9回	49名	9名	—
English Speakers' Meeting	6回	39名	6名	—
中国語を話すHIV陽性者のミーティング	3回	10名	3名	—
プログラム参加者総数	82回	595名	95名	36名

*12/21の専門家と話そうはYouTube配信で参加者のカウント不能のため算入していません。

各プログラム報告

●新陽性者ピア・グループ・ミーティング (PGM)

【対象】 HIV感染がわかってから6ヶ月以内の陽性者

【定員】 原則5~7名

【開催回数】 2時間のミーティングを2週間毎に計4回実施

【実績】 2001年4月に第1期スタート、2026年3月までに通算で428回開催、参加者数はのべ2,267名 (実人数：623名)

【目的】 HIV感染告知後の新たなスタートを切ってもらうこと

【進行】 ピア・ファシリテーター (HIV陽性の当事者スタッフ) 1名 + スタッフ・ファシリテーター (進行担当) 1名またはピア・ファシリテーター 2名

2025年度は第117期1回目から4回目まで実施



●ミドル・ミーティング

【対象】 原則40代以上の男性HIV陽性者

【開催】 毎月第2土曜日

【進行】 ピア・スタッフ

●異性愛者ミーティング

【対象】 異性愛の男女のHIV陽性者

【開催】 原則奇数月第4土曜日、偶数月第3木曜日

【進行】 ピア・スタッフによる交代制

●ゆる会

【対象】 HIV陽性者ならどなたでも

【開催】 毎月

【進行】 ネスト・プログラム・コーディネーター

●クロスボーダー+ミーティング

【対象】 海外移住の希望や海外への興味を持つHIV陽性者、海外在住のHIV陽性者

【開催】 不定期開催

【進行】 ぶれいす東京スタッフ

●もめんの会

【対象】 HIV陽性者の子どもを持つ母親を中心とした保護者

【開催】 3ヶ月に1回

【進行】 ぶれいす東京スタッフ

●ストレス・マネジメント講座～ストレスとうまくつきあうためのワーク～

【対象】 HIV陽性者

【定員】 16名

【目標】 ストレスに関するワークによってマネジメントスキルを身につけること

【開催】 1期全3回 (1回1時間半)

【講師】 臨床心理士の資格を持つぶれいす東京スタッフ

●就職支援セミナー

【対象】 就職・転職に興味のあるHIV陽性者

【開催】 年2回

【進行】 ぶれいす東京スタッフ
10月に第23回 (5企業 + 1団体参加)、3月に第24回 (5企業 + 1団体 + 1病院参加) を開催



●専門家と話そう

【対象】 HIV陽性者

【開催】 原則年2回

【進行】 ぶれいす東京スタッフ
12月に第31回Special「ストレスとの付き合い方、見つけてみませんか?」、1月に第32回Special「老後と法律とお金のこと」を開催



●介護・福祉職として働く陽性者の交流会

【対象】 介護・福祉職として働くHIV陽性者、これから介護・福祉業界を目指すHIV陽性者

【開催】 原則偶数月開催

【進行】 ぶれいす東京スタッフ

● 医療者として働く陽性者の交流会

【対象】 医療系の有資格者のHIV陽性者

【開催】 原則奇数月開催

【進行】 ぶれいす東京スタッフ

● 障害者枠で働く陽性者の交流会

【対象】 障害者枠で働いているHIV陽性者

【開催】 隔月開催

【進行】 ピア・スタッフ、ぶれいす東京スタッフ

● 年末パーティー

【対象】 HIV陽性者、陰性パートナー、配偶者、親

【開催】 年に1回（12月）

【進行】 ピア・スタッフ

【内容】 自己紹介、ネスト・プログラムの紹介など

● カップル交流会

【対象】 HIV陽性者、パートナー（陽性者・陰性者どちらでも）

【開催】 不定期開催

【進行】 ぶれいす東京スタッフ

● ピアトーク

【対象】 HIV陽性者

【開催】 不定期開催

【進行】 ピア・スタッフ、ネスト・プログラム・コーディネーター、ぶれいす東京スタッフ

5月に第19回「ポジティブジャーナル～陽性者向け新規サービスをレポートせよ！」を開催



● English Speakers' Meeting

【対象】 英語を話すHIV陽性者（日本人も参加可）

【開催】 隔月開催

【進行】 ピア・スタッフ、ぶれいす東京スタッフ

● 说中文的HIV阳性者集会～中国語を話す陽性者のミーティング

【対象】 中国語を話すHIV陽性者（日本人も参加可）

【開催】 約3ヶ月に1回

【進行】 ピア・スタッフ、ぶれいす東京スタッフ

● なんでも話せる相談

ぶれいす東京のサービスへの入り口としても機能していたさまざまな相談ニーズに対応した窓口でしたが、事情により2026年3月をもって終了しました。

これまでの相談実績は次の通り。

2023年度 7件

2024年度 7件

2025年度 16件



Step! 「参加のハードルを下げて」新たなプログラムを

現在の利用登録者数は1,541名（2026年3月末現在）です。ボランティア・スタッフから「よりハードルの低い参加の仕方が必要なのでは」と提案がありました。現在、ネスト・プログラムに参加するには、利用者の安全性の向上のために利用登録を必須としていますが、登録を必要としない中間的なプログラムの実施を検討しています。引き続き、ボランティア・スタッフと共にネスト・プログラムの新たな展開を模索していきます。

謝辞

今年度も多くの個人のみなさまと団体からご寄付をお寄せいただきました。社会情勢が厳しくなっているなかでご支援いただいたことを深く感謝いたします。

プログラムに助成していただいた東京都福祉保健財団、ご寄付をお寄せいただいたヴィーブヘルスケア株式会社、MSD株式会社、オフィス Two I、ギリアド・サイエンス株式会社（五十音順、敬称略）、そして多くの個人のみなさまに改めて御礼申し上げます。

感想文

第19回ピア+トーク「ポジティブジャーナル
～陽性者向け新規サービスをレポートせよ!
(2025.5.27開催)

●「誰も取り残さないイノベーション」

けそべるかなざわ(感染歴22年/初参加)

「誰も取り残さない社会」という言葉は、昨今よく耳にするようになりましたが、言葉で言うほど、「誰も取り残さない社会」は簡単でも身近でもないのに、唱えれば叶うおまじないよろしく、それを言うことが目的になっているかのようにさえ感じてしまいます。

「誰も取り残さない」ためには、特にマイノリティ性の高い事案において、それを受け止める社会の形成が重要になるわけですが、こと地方においては遅々として進まず「故郷が住みにくい町」と感じている当事者の方もおられると思います。



続きと
他の感想文は
こちら

第32回専門家と話そうSpecial「老後と法律とお金のこと」参加者の感想文(2026.1.30開催)

●「手遅れにならないうちに気付けてよかった」

ヨッシー(感染告知2025/服薬歴1年/初参加/40代/ゲイ)

自分が高齢化してからのこと。普段は今を生きることに精一杯の自分には、あまり落ち着いて考えることのないテーマでした。高齢化してから実際にどういったトラブルや困りごとが起きるのか、そして、そのダメージを軽減するためにどのような対策が可能なのか、こういったことを学習するよい機会になりました。

自分は遺言書を書くことの重要性を再認識しました。人間はいつ死ぬか分かりませんのでアラフォーの自分にとっても大変役立つ内容でした。愛する人をより大切にできますように。より豊かに生きるヒントが得られることかと思います。



他の感想文は
こちら

第24回就職支援セミナー参加者の感想文

(2026.3.19開催)

●「一歩踏み出すセミナー参加」

satoshi(服薬歴12年/30代)

今回は自身が転職活動中ということから参加させていただきました。採用担当者様の声を直接聞けるのは、採用面接以外ではなかなか無いためとても貴重です。多くは面接の時に話すのが最初だと思います。

また、ブレイクアウトルームで「どんな雰囲気のか」など応募前に知っておきたいことを聞けるのはとても有意義です。参加者みんなが話しやすい・聞きやすい空気に安心しました。



プログラム
ページは
こちら

「ゆる会」参加者へのアンケートから

●様々なセクシュアリティの方々とは多岐にわたる話が出来てとても楽しかったです。

●同じ境遇の方とお会いできるのは安心できました。医療現場とみなさまのご支援あって、表面上は普通に生活できるようになってくると、「HIV 同士」という集まりにそれほど依存しなくてよくなり参加頻度が減りました。ただ、やはりふとした瞬間に寂しくなったり、HIV 同士じゃないと話せないという事があります。そんな時はまた参加したいなと思っております。参加してた時に知り合いも来て、本当にありがたかったです。

●テーマを限定せずに、話せるということで、全般的に網羅的な情報交換の場になったことが一番よかったと思う。

●初めて参加しましたが、HIVの話も、それ以外の話も話せてよかったです。ゆるい会ということなので、緊張せずに話せましたし、皆さんの話も聞くことができてよかったです。

●いつもは他のプログラムでオンラインで参加していて、対面かつゲイじゃない方とも交流が出来るので、広い意味で健康的な経験をすることが出来ました。

●ゆるっと話せるのが良かったです！



プログラム
ページは
こちら

Topic! HIVがつないだ長期にわたる人間関係、旅立ちも…

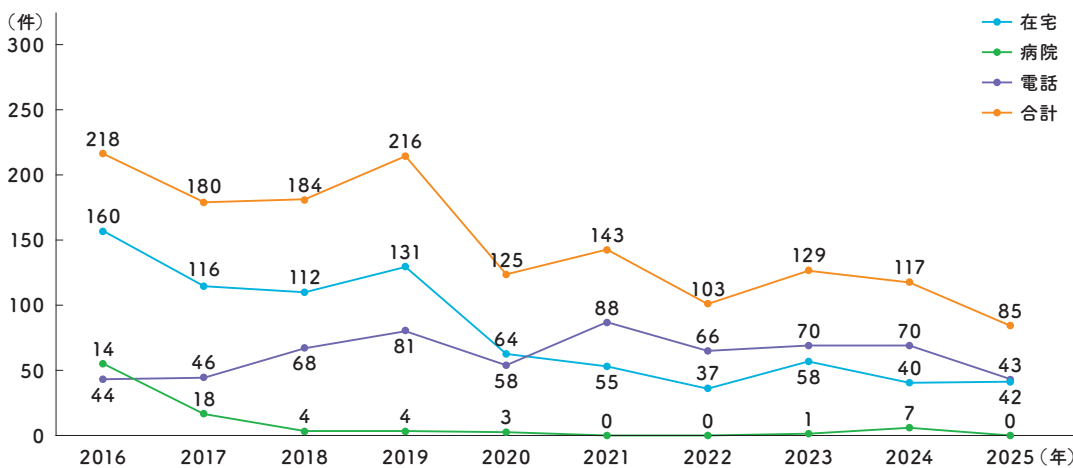
英語で「相棒」という意味の「バディ」。トレーニングを受けたボランティアを派遣し、入院中の方への訪問、外出や入退院の付き添い、在宅での話し相手や家事援助など、多様な依頼に対して、できる範囲でお手伝いしています。バディは、家族や友人、専門家ではありませんが、HIVをきっかけにクライアントと新しい関係を築きながらQOL（生活の質）向上を目指しています。

また、今年度は27年間と15年間という長期にわ

たり関わっていた2名のクライアントが逝去され、活動が終了しました。1人は80歳代後半の方で、1996年から話し相手として利用され、20年間1人のバディとの関係を大切にしていました。もう1人は70歳代後半の方で、外出時の同行を、杖歩行の時から車椅子になっても継続し、10名以上のバディとの関わりを楽しんでいたように思います。

2025年度に新規派遣のあった1件は、急な病気で入院された方からの支援依頼でした。

過去10年間の活動件数の推移



Outline 新たに5名がバディ・スタッフに仲間入り

バディとして活動をはじめには、ボランティア研修と部門研修「バディ・ワークショップ」の修了が必要です。スタッフ構成は、20～70代までの男性23名、女性18名の全41名。今年度は、バディ・ワークショップを2025年11月3日に開催し、講師3

名と参加者5名で無事に修了し、新たに5名が新規バディ・スタッフとして登録しました。

ケースを受け持つバディだけが参加できる「バディ・ミーティング」は、定例ミーティングを4回、個別ミーティングを11回開催しました。

2025年度バディ活動実績

派遣依頼

前年度より活動を継続…11名
活動休止中…8名
新規依頼…1名
合計…20名

バディ派遣終了…4名

派遣終了理由：死亡…2名
ニーズの消失…2名

活動バディ・スタッフ

派遣依頼12名（休止中8名を除く）に対し17名のスタッフを派遣。（クライアント1名に対する実人数でカウント）

活動内容

活動件数85件のうち電話・手紙によるコミュニケーション（訪問連絡等の電話は件数に含まず）43件（50.6%）、在宅訪問42件（49.4%）、総活動時間は約106時間でした。病院訪問は、依頼はあったものの、依頼者が面会できない状態だったため、実際の活動には至りませんでした。

訪問先と活動内容

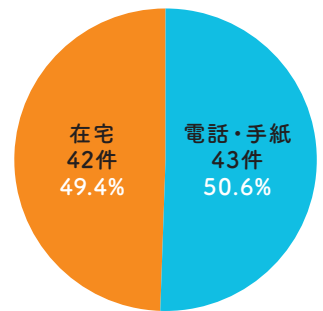
●在宅

全42件のうち、外出介助が25件（59.5%）、家事援助が17件（40.5%）でした。外出介助は、車椅子や杖利用者の外出時の介助/同行でした。家事援助は、家の整理や掃除などを目的とした活動でした。ちなみに、外出介助やその他の訪問においても、会話は大切です。ほとんどの活動が会話をしながらでした。

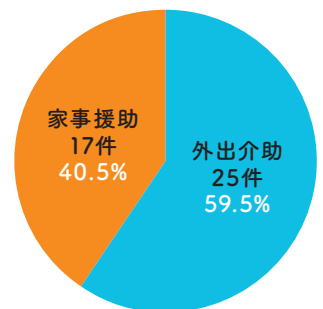
●電話・手紙

定期的な電話連絡や手紙のやり取りを通して、在宅の方、病院・施設に入院・入所している方に近況を聞くなど、人間関係の継続に努めています。今年度は43件の活動があり、うち電話を持たない方との手紙のやり取りも5件ありました。

主な活動先



在宅での活動内容



Step! 長期化する関係性と今後の体制づくり

何らかの身体障害を持ちつつ、在宅で暮らしている単身の中高年男性。このような方々がクライアントに占める割合が相変わらず高い傾向にあります。

今年度は、長期にわたり関わっていた高齢の2名のクライアントが急にお亡くなりになりました。80代の方は、27年間、話し相手に1人のバディと関わってきました。もう1人の70代の方は、外出時の同行を10名以上のバディとの交流を楽しんでいました。それぞれにバディとの関わり方の違いが見て取れます。

今後は、クライアントの高齢化もあれば、活動す

るバディの高齢化もありえます。互いが、無理のない中で活動を共にし、関係を続けていければと考えます。（入院など一時的なニーズでバディを利用し、退院と共に利用が終わり、元の生活に戻る方もいます）

継続的な課題として、平日に動けるバディを増やし、多様な依頼に対応できる体制作りを今後も目指していきたいと考えます。

最後に、バディ・スタッフの協力があってこそ活動を続けられています。いつもご協力いただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

Topic! さまざまなケースに、各関係機関と連携しながら寄り添う

HIV陽性者、確認検査結果待ちや要確認検査の方、その周囲の方々へ、電話や対面、E-mail・手紙などによる相談サービスを提供しています。HIVに関する電話相談や直接的なケアを担当してきた社会福祉士や医師が相談員を務め、2016年度から、HIV陽性の相談員による電話相談も実施。刑事事件等による身柄拘束者および受刑者との手紙によるやりとり「お手紙プロジェクト」も行なっています。

相談件数は、昨年と比べ、電話・対面ともに減少しました。HIV陽性者からの相談では、対人関係と制度に関する相談が増加し、心理や精神に関する相談で減少しました。相談者には、精神疾患、薬物依存やその他の依存症を持つ方、経済的な問題を抱える方など、さまざまな背景があり、医療機関や行政、福祉施設や民間の支援団体などと連携しながら支援を行いました。

加えて、就労や医療、福祉制度に関する相談も多くありました。滞りする外国人からの相談も年間を通じてあり、中国、台湾、ベトナム、ミャンマーといったアジア圏の方から、日本での薬の入手方法、福祉制度に関する相談がありました。

確認検査結果待ちの方の相談も一定数あり、民間のクリニック等での自発的な検査や術前検査で、陽性の結果を予測せず通知を受けた方から、混乱した状況での相談がありました。最近では、郵送検査の結果をWEBで知り、確認検査を受ける医療機関について相談される方も増えています。

また、配偶者やパートナーなど周囲の人からは、周りに相談ができない閉塞感、言えない背徳感などに関する相談もありました。団体として、社会の中での生きづらさについて、病気の情報や知識を社会に発信していく必要性を改めて感じました。

相談員から

コロナ禍を通り過ぎ、新たな時代を迎えた感があります。HIV感染症への向き合い方以上に、私たちを取り巻く社会情勢への不安を強く感じるものが増

えています。もちろん、告知直後の方々からは不安に戸惑う相談が従来通り寄せられていますが、変化は確かに相談内容から見て取れます。現在、多くの人が直面しているのは、出口の見えない経済的不安、多様性を軽視する政治状況への不信感、さらにSNSやメディアで日々伝えられる紛争の惨状です。これらに対して無力な国際社会を目の当たりにするなかで、心の平穏を保つのは容易ではありません。陽性者に限ったことではありませんが、もともとの不安に重なってしまうことで、より不安が強化されてしまいます。今こそ、自分をケアし、信頼できる誰かとつながることが、難しいけど、必要なことですね。(生島)

陽性者本人の老後の不安だけでなく、当事者を支える家族やパートナーからも今後の不安について聞くことが増えたような気がします。陽性者本人からは、親やパートナーの介護に関する相談もありました。一方で、就労、住宅ローンや生命保険、海外渡航、子作りなど、将来を見据えた相談があり、より長いスパンで自分の社会生活を考える時代になったと感じています。地方在住の方からは、情報や支援の少ない不安感や孤立感、周囲へのプライバシー不安など、地域それぞれの大変さを聞くこともあり、今後もいろいろな機関と連携し、相談できる場所や人の情報を増やしながらか支援ができればと考えます。(牧原)

非常勤の相談員として、主に土曜日のポジティブラインを担当しています。ここ数年はひと頃と違い、土曜日に電話をいただく件数は少ない状況が続いています。治療や検査など医療の進歩、行政や福祉における経験の蓄積、インターネットやSNSによる情報収集の多様化など、考えられる要因はいくつもありますが、担当者の技量不足が原因でないことを祈ります。HIVを巡る環境は刻一刻と変化していますが、それでも不安や混乱に苛まれ、電話をかけて

こられる方はいます。告知直後の方しかり。ベテラン陽性者でも何かをきっかけに立ち止まったり、そうした陽性者の周囲の方々も同様に思い悩んだり。電話相談は「オワコン」ではないと信じたいです。
(福原)

陽性相談員から

当事者相談の時間帯を選ぶ方の大半は同じ立場の方ですが、時には確認検査の結果待ちの方から「当事者の話が聞きたい」と電話がかかってくる場合があります。そして最もよく聞かれる質問が「どんな日常を過ごしているか」。答える内容はネットで調べれば出てくる事と同じですが、当事者から直接聞くことで具体的なイメージを描くことができます。HIVに感染した時点で自分の人生は閉ざされてしまうのではないかと、そのような強い不安を感じている確認検査結果待ちの方はいまだに多くいます。そんな方々に当事者が自分の声でごく普通に日常生活を送っている現状を伝えることで、結果待ちの間の不安の軽減に少しでも役立てればと思っています。
(相談員 J)

2025年度 お手紙プロジェクト報告

2025年度の対象者は3名、お手紙受理8通、返信4回、面会2回、その他1回で4名の相談員で対応しました。

お手紙の返信だけでなく、相談されている内容についてさまざまな制度を調べるメンバーがいたり、面会に出向いてくれるメンバーがいたりすると、相談員が増えたことで対応できる内容が広がったと考えています。

また、収監されている方たちがどのような不安を抱えているのか、それに対して他の機関も含め何ができるか考えてもらうきっかけを作りたいと、第39回日本エイズ学会学術集会で「刑務所から地域へHIV関連機関ができること-お手紙プロジェクトから見えてきたニーズと課題-」という演題発表をしました。ブースでは前回同様、お手紙プロジェクトの案内を配布。拠点病院のスタッフの方から「このような取り組みを知りたかった。」といった反応がありました。お手紙プロジェクトの活動を通し、少しずつ社会がよい方向へ変化していけるよう粘り強く声をあげていければと思います。(相談員 M)

Outline 電話、対面、手紙、一人一人に合わせた相談体制

「ポジティブライン」0120-02-8341 (月～土 13:00～19:00 / 陽性者相談員 木 15:00～18:00)

「対面相談サービス」(月～土 12:00～19:00) ※ 厚生労働省委託事業

刑事事件等による身柄拘束者および受刑者との手紙相談「お手紙プロジェクト」

HP上に確認検査結果待ちの方への情報、外国人の方に向けた情報も提供しています。



確認検査／
要確認検査／
判定保留
結果待ちの人へ



外国人の方
向け情報提供

2025年の活動実績 (2025.4.1～2025.3.31)

相談・連絡件数

電話による相談 … 1137件
(陽性相談員対応 78件)
対面による相談 … 238件
手紙による相談 … 7件
合計 … 1382件

相談者の属性 (電話・対面のみ)

HIV陽性者 … 1225件
パートナー・配偶者 … 22件
家族 … 26件
専門家 … 26件
その他 … 14件
確認検査待ち・要確認検査 … 51件

新規相談は、ホームページの活動実績に3か月ごとにまとめを作成しています。属性や内容の詳細もありません。ぜひご覧ください。



電話・対面相談に
寄せられた内容項目

HIV陽性者と確認検査結果待ち / 要確認検査の相談について、内容を1～9の項目に分類しました。複数の項目に該当する相談内容であった場合は、それぞれの項目に含めて集計しています。
(複数選択)

1. 検査や告知に関する相談	58
2. 告知直後の漠然とした不安	104
3. 対人関係に関する相談	173
4-1. 生活に関する相談	459
4-2. 制度に関する相談	241
5. 心理や精神に関する相談	680
6. 病気や病態の変化や服薬	196
7. 医療体制や受診に関する相談	97
8. 医療機関以外の支援体制・リソースへのアクセス	7
9. 連絡等のコミュニケーション	533
周囲や専門家（外部）からの相談や連携	165

相談の多かった項目の内容（一部抜粋）

5 心理や精神に関する相談	
精神疾患（抑うつ障害、適応障害、統合失調症、その他）に関する相談	474
薬物依存	117
その他の依存傾向（アルコール、セックス、ギャンブル、対人、その他）	42
精神科の受療に関する状況	19

※「精神疾患」は、本人から病名や通院履歴等の申告があり、その時の相談内容に影響していると相談員が判断した場合に選択。

6 病気や病態の変化や服薬	
その他の疾患	112
CD4/ウイルス量の変化	29
服薬の継続	19
HIVの関連症状	12

4-1 生活に関する相談	
就労/就学	282
住宅問題/ホームレス（野宿生活）	64
外国人	30
経済的な問題	29
法律問題	18

4-2 制度に関する相談	
障害者の制度利用（手帳取得、自立支援、重度医療、障害者控除、施設入所）	93
生活保護	56
障害者雇用	37
健康保険（高額療養、傷病手当、付加給付、後期高齢者医療）	24
障害年金	23

Step! 他機関との連携、きめ細やかな対応を

今後、郵送検査が普及した場合、WEBでスクリーニング陽性の結果を受けとる人の増加が予想されます。それに伴い、その後の確認検査が受けられる医療機関への受診支援等を必要とする人が増えることも想定しなければなりません。検査後の支援については、検査を行う医療機関や自治体とも連携しながら対応する必要があると考えます。

滞日外国人からの相談は継続的にあり、今後も外国人支援の団体や医療機関と協力し、対応をしていきたいと思ひます。加えて、精神疾患のある方や薬物使用者、路上生活者や不安定な経済状態の方、長年の服薬疲れの方からの相談もあるため、地域の支援者とさらに連携を深めていきたいと考えています。

外国人への相談サービスの提供
(厚生労働省委託事業)

CRIATIVOS (P-LATINO) とシェア=国際保健協力市民の会が、電話、メール、LINE、対面、訪問・同行 (Zoomも含む) での相談を、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語などで実施しました。また、ふれいす東京とCRIATIVOSが共同で、LINE上にP-LATINOの公式アカウントとWEBを作成し、

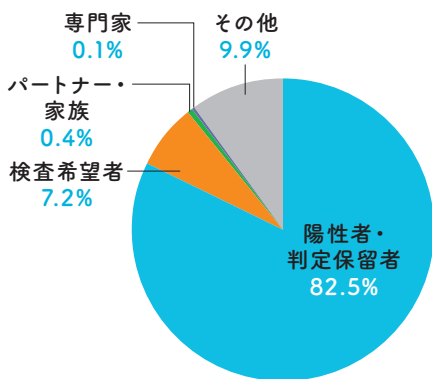
LINE相談を行いました。

今年度も、滞日外国人から来日前後に相談があり、医療や福祉の制度の情報提供をしたり、病院と連絡調整をしたりするなどの対応、訪問・同行の依頼にも可能な範囲で行いました。

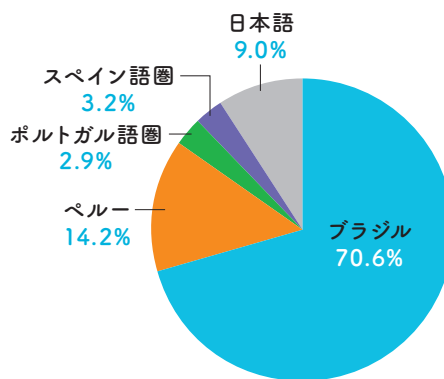


CRIATIVOS (P-LATINO) の実績報告

相談者の属性 (のべ件数 N=1492)



対象者の国籍・言語 (のべ件数 N=1492)



相談者の年代は、20代245 (16.4%)、30代595 (39.9%)、40代456 (30.6%)、50代92 (6.2%)、60代87 (5.8%)、不明17 (1.1%) でした。居住地域は、東北72 (4.8%)、東京163 (10.9%)、関東/甲信越623 (41.8%)、東海60 (4.0%)、北陸548 (36.7%)、近畿13 (1.0%)、九州8 (0.5%)、不明5 (0.3%) でした。

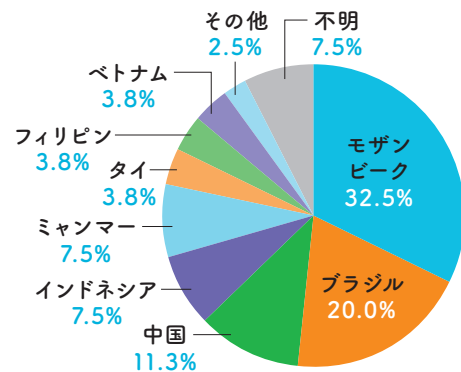
相談内容の多かった項目 (一部抜粋)		(N=1492)	
医療体制・医療との関わり・連絡	651	HIV及びHIV検査に関する相談	107
社会保障等行政に関する相談	270	治療に関する相談	106
通訳・翻訳	153		

シェア=国際保健協力市民の会の実績報告

相談者の属性と、相談の対象者の属性 (のべ件数) N=80

HIV陽性者/確認検査結果待ち: 10 (12.5%)
 専門家... 70 (87.5%) 合計... 80
 HIV陽性者/確認検査結果待ち... 78 (97.5%)
 その他... 2 (2.5%) 合計... 80

対象者の国籍・言語 (N=80)



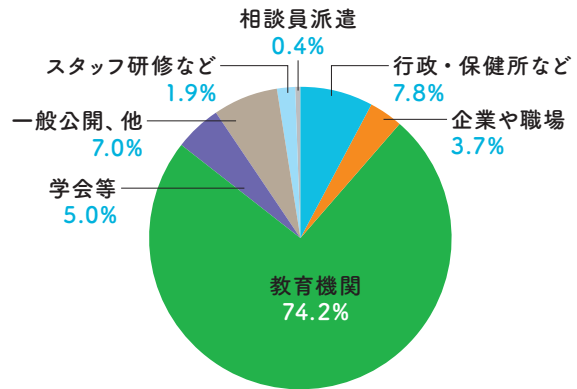
相談対象者の年代は、20代13 (16.3%)、30代14 (17.5%)、40代26 (32.5%)、50代3 (3.7%)、不明24 (30.0%) でした。居住地域は、東京47 (58.7%)、関東/甲信越21 (26.2%)、東海4 (5.0%)、近畿3 (3.8%)、海外4 (5.0%)、不明1 (1.3%) でした。

相談内容の多かった項目 (一部抜粋)		(N=97)
通訳派遣及び調整	42	
通訳・翻訳	24	
母国情報の提供・帰国支援	4	
服薬・副作用に関する相談	4	
医療体制・医療との関わり・連絡	4	
医療費や支払いについて	4	

Topic! 講師派遣61件、教育機関が5割超

研究・研修部門は、当事者の視点を生かした独自の研究や、受託研究などのさまざまな調査・研究と、HIV/エイズやセクシュアリティ等をテーマにした講師派遣や、研修の企画・運営などを行っています。2025年度は61件の講師派遣・研修依頼に対応し、計3,605人（動画出演などを除く）の参加がありました。また、保健所の感染症担当の紹介で、中学・高等学校から性教育に関連した出講依頼が多くありました。

講師派遣・研修先（61回、3605人）



Outline サイト運営から広報まで、医療機関の研究班に複数参加

令和7～9年度 厚生労働省科学研究費補助金 (エイズ対策政策研究事業)

生島が研究代表に就き「薬物を使用することがある人のヘルスプロモーションを実現するための包括的支援に関する研究」がスタートしました。

1) MSMを対象としたアンケート調査、2026～2027年に縦断調査を予定

三輪岳史、山口正純、林神奈、若林子ヒロ

2) 薬物を使用したことがあるHIV陽性者のインタビューからリソースマッピング

大木幸子、生島嗣

3) アディクション・ぽーとの機能の明確化と全国での実践例を開発

保坂嘉成、福正大輔

3) 地域連携_事例の促進

新田慎一郎、村崎美和、山口正純

4) 刑務所・警察～エイズ拠点調査

生島嗣、岡本学、村崎美和、赤木寛隆、片山宗紀

5) ハームリダクション啓発の商業空間での海外事例収集

大島岳

6) アジアとのネットワーク、「ダメ絶対」の中での啓発、支援のあり方

徐淑子、古藤吾郎

医療機関や大学などと連携して

国立国際医療研究センター・水島大輔医師の研究班における分担研究として、ぷれいす東京スタッフが情報のポータルWebサイト「PrEP in JAPAN」を運営しています。研究班が、札幌・那覇・福岡のクリニックと連携して、PrEP希望者を対象にした実証実験研究を実施し、広報、事前アンケートも担当しました。アンケート参加者は札幌：303人、沖縄：279人、福岡：95人でした。

名古屋医療センター・横幕能行医師の研究班では、「職場のためのHIVハンドブック～正しく知る、冷静に支える。」の冊子、動画を制作しました。社員がHIV陽性だと判明した際に、人事・上司・産業保健関係者は、どのように対応すればいいのか、参考にしてほしいアドバイスが詰まっています。

Topic! エイズの記憶を次世代へTOKYO AIDS WEEKS 2025開催

本年度も、世界エイズデー（12月1日）を中心とした啓発キャンペーン「TOKYO AIDS WEEKS」（協賛：ヴィーブヘルスケア株式会社）を開催しました。この取り組みは、HIV/エイズに関する正しい知識の普及と、偏見や差別の解消を目的としたネットワークイベントです。TOKYO AIDS WEEKS・ぶれいす東京主催・共催として、「エイズBOOKフェア」など9つのイベントが開催されました。

「BOOKフェア」は「エイズの記憶を次世代に伝える」をテーマに東中野の「platform3」にて、さまざまな専門家や当事者が選書した書籍とコメントの

展示を行いました。ブックフェアや各イベントを通じて、40年以上にわたる社会の歩みとHIV/エイズの歴史と現状に向き合う契機となったと思います。今後も、正しい知識の普及と、当事者が安心して暮らせる社会の実現に向け、コミュニティ間の連携を深めてまいります。



会員・寄付者

●役員

理事：生島 嗣（代表を兼任）、牧原信也（運営委員長を兼任）、池上千寿子、根岸昌功、兵藤智佳、山下敏雅、加藤力也、野坂祐子
監事：常住 豊

●事務局スタッフ

フルタイム2名、パートタイム7名

●部門担当者

【ホットライン部門】原田（明）、阿曾、楊井／【SEXUAL HEALTH PROJECT】福正／【Gay Friends for AIDS 部門】生島、阿曾／【ネスト部門】加藤、大島、原田（玲）／【バディ部門】牧原／【HIV陽性者と周囲の人・確認検査待ちの人への相談サービス部門】生島、牧原／【研究・研修部門】生島／

【事務・総務部門】伊澤（経理担当）、新井、鎌田
6月に原田明裕が事務局長に就任しました。

●会員

238名
（うち正会員66名、活動会員172名）

●賛助会員

個人 47名
団体 5 団体：株式会社アルバコーポレーション、おかぴファーマシーシステム株式会社、サーチコア株式会社、中村キース・ヘリング美術館、一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会
（50音順、敬称略）

●活動助成をいただいた団体

公益財団法人東京都福祉保健財団、メルク・アンド・カンパニー (Merck & Co.)

●寄付をいただいた団体

ヴィーブヘルスケア株式会社、MSD株式会社、オフィスTwo I、カトリックHIV/AIDSデスク、ギリアド・サイエンシズ株式会社、相談支援ぼちぼち、日本聖公会東京教区、北陸HIV情報センター
（50音順、敬称略）

●募金箱などによるご寄付

中村キース・ヘリング美術館、News Café、チャリボン（株式会社バリューブックス）（敬称略）

多くの個人の方からもご寄付をいただきました。お名前の掲載は控えさせていただきますが、心よりお礼申し上げます。

Outline 多角的に展開、ぶれいす東京の活動

● 受託事業

【厚生労働省】

- ・「HIV陽性者等のHIVに関する相談・支援一式（関東地域におけるピア・カウンセリング等支援事業）」

【東京都】

- ・東京都HIV/エイズ電話相談
- ・東京都HIV検査情報Webの制作
(<https://tokyo-kensa.metro.tokyo.lg.jp/>)
都内各保健所や検査相談室における検査情報について、随時更新を行っています。また年に2回（東京都HIV検査・相談月間、東京都エイズ予防月間）、ゲイ向けのポータルサイトや出会い系アプリなどに、東京都HIV検査情報Webのバナー広告の制作・出稿を行っています。
- ・東京都によるゲイ・メディアへの広告制作
MSMを対象としたポータルサイトに検査相談室の取材記事を年に1回掲載しています。

● 他団体との協働プロジェクト

- ・TOKYO AIDS WEEKS 2025
- ・HIV/AIDS啓発活動コンソーシアム「HIV/AIDS GAP6」
- ・Not Alone Cafe 東京
- ・LGBT支援ハウス
- ・プライドハウス東京レガシー ウェルネス・サポートチーム
- ・Living Together 計画
(HIVのリアリティを伝えるプロジェクト)
- ・感染症コミュニケーション円卓会議

● ロビー活動

HIV関連NGO・当事者団体でUNAIDS（国連合同エイズ計画）の存続と2030年のエイズ終息を求める要望書を厚生労働省、国連広報センター（2026年1月15日）、外務省（2026年1月29日）に提出。



● 外部委員会への参加

ぶれいす東京・代表の生島らスタッフが、行政をはじめとする外部機関に委員として参加するとともに、保健所や医療機関からの相談に協力しています。

- ・東京都エイズ専門家会議 委員
- ・独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者雇用サポーター
- ・公益財団法人友愛福祉財団 理事
- ・新宿区HIV/AIDS関係機関ネットワーク連絡会 委員
- ・特定非営利活動法人エイズ&ソサエティ研究会議 副代表
- ・LGBT法連合会 医療・福祉委員会 委員

● 新規ボランティア研修会の実施

新規ボランティアの募集と研修を行いました。オンライン説明会には16人が参加。対面開催の研修は9月に2日間実施し、12人が研修を修了しました。



感想文と研修
内容はこちら

● Webサイト・SNSの運営

ぶれいす東京本体のほか、委託、コラボなどの形態でさまざまなサイトを運営。YouTube「ぶれいす東京チャンネル」などで23本の動画を公開しました。SNSでも情報を発信しています。



Webサイト
一覧



ぶれいす
YouTube

● 認定NPO法人資格更新のご報告

2019年に認定NPO法人の資格を取得してはや5年、2024年8月に東京都に資格の更新申請をして、2025年6月20日に、更新が正式に決定いたしました。

この5年間を通して、毎年100人以上の認定サポーターの皆様にご支援いただきました。(2019年度169、2020年度150、2021年度177、2022年度166、

2023年度150、5年間合計延べ812の個人・団体)

また、ご寄付やボランティア、イベント参加など、多くの皆様のご支援をいただきました。認定更新のご報告とともに、皆様の温かいご支援、ご助力に深くお礼申し上げます。ふれいす東京スタッフ一同、より一層の活動の充実を目指し励んでまいります。今後とも、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

● メディアへの協力

テレビ・ラジオ、新聞や雑誌、Webなど各種メディアからの取材に協力・寄稿。内容の妥当性及び取材協力者のプライバシーへの配慮などを確認しています。

媒体名	内容	公開日
newTOKYO	【札幌・沖縄限定】LGBTQ+フレンドリーな医師だから安心。1ヶ月 3,300円(税込)でPrEP、始めてみない？	4/9 掲載
g-lad xx	2025年6月のHIV検査キャンペーン	6/1 掲載
読売新聞	[医療ルネサンス] エイズ新時代〈1〉カミングアウトを映画に	6/10 掲載
読売新聞	[医療ルネサンス] エイズ新時代〈2〉「検出限界値未満」感染せず	6/11 掲載
読売新聞	[医療ルネサンス] エイズ新時代〈3〉抗HIV薬で感染予防	6/12 掲載
g-lad xx	ふれいす東京がボランティアを募集しています	8/27 掲載
日テレNEWS	「問診票は男女二択のみ」…性的マイノリティの3人に1人が医療サービス利用に困難感じる	9/16 掲載
弁護士JPニュース/ livedoor News	トランスジェンダーの人々「病院に行きづらい」差別・偏見恐れ6割超が“困難”と回答…LGBTQ+「医療ニーズ」の実態とは	9/17 掲載
日刊業業	HIV郵送検査体制の拡充を ギリアド会见でHIV陽性者支援団体ら	10/1 掲載
newTOKYO	半透明になる僕たちの声は、どんな光を通すのか？ TOKYO AIDS WEEKS「Meet Us Where We're At」上映会レポート	1/31 掲載
g-lad xx	レポート：GAP6「2030年までのHIV流行終結を目指す Photo&Movieプロジェクト」記者発表会	3/25 掲載

● PR TIMES掲載記事

記事タイトル	配信日	掲載メディア
LGBTQ+患者対応に不安がある医療従事者へ。「日常診療に活かすLGBTQ+とHIVの基礎知識」入門動画を、12月末まで無料公開	10/21	60件
“HIV・エイズはまだ終わっていない”ー HIV・エイズの「現在」を知る「TOKYO AIDS WEEKS 2025」開催	11/11	56件
記憶をつなぐ「HIV／エイズの歴史アーカイブ・プロジェクト」始動ー 証言映像や記録を集めた特設サイトがオープン	1/6	62件

寄付のお願い

DONATION

ぶれいす東京はHIV/エイズとともに生きる人たちが自分らしく生きられるように、多様な活動を展開しています。私たちの活動を応援してください。

寄付で応援する

ぶれいす東京を財政面から応援してください。匿名でも寄付いただけます。

【単回の寄付】

クレジット決済、郵便振替、銀行振込、現金などでいつでもご寄付いただけます。

【毎月の寄付（クレジット決済）】

毎月1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円など、定期引き落としの金額を選べます。



定期引落

【送金方法】

- クレジットカード ぶれいす東京Webサイトから <https://ptokyo.org/support/donation#credit>
- ゆうちょ銀行振替口座 00160-3-574075
「特定非営利活動法人ぶれいす東京」



クレジット
カード
による寄付

※送金される際、通信欄に寄付か会費納入かご一筆ください。専用の振替用紙もあります。

- 三井住友銀行／高田馬場支店／普通預金／2041174
「特定非営利活動法人ぶれいす東京」

※銀行振込の場合、名前・住所などのご連絡をいただかないと、お礼や寄付金控除のご案内等ができません。ご希望の場合はメールフォームをご利用ください。



メール
フォーム

- 事務所で寄付することもできます。事前にご連絡ください。(TEL 03-3361-8964)

賛助会員になって応援する

毎年継続して寄付をすることでぶれいす東京を支えていただく会員です。合わせて認定NPOサポーターになることもできます。

年会費（4月～翌年3月）

個人賛助会員：（一口）1万円

団体賛助会員：（一口）2万円

詳しくは、<https://ptokyo.org/support/supportingmembers>



賛助会員

寄付/賛助会費振込の際はぜひ「認定NPOサポーター」に！

2019年12月3日に認定NPO法人になりました。

認定NPO法人への寄付は、寄付額に応じた所得税の税額控除が受けられます。賛助会費も控除対象です。法人が寄付した場合は、損金算入限度額の枠が拡大されます。また、遺産を相続し、そこから寄付をした金額は非課税になります。

認定NPO法人になることで寄付が増え、団体の安定に繋がることを期待しています。認定NPO法人を継続するためには、年間（4月～翌年3月）3,000円以上の寄付者が毎年100人以上必要です。

ご協力いただける方は、寄付や賛助会費を振り込まれる際、「認定NPOサポーター希望」「名前/住所（自宅）（団体の場合は、団体名と所在地）」をお知らせください。

詳しくは、<https://ptokyo.org/support/authorizednpo>



認定NPO
サポーター

チャリボンで寄付する

引っ越しなどで不要になった本・CD・DVDなどを「チャリボン」に送ると、その売り上げ金がぶれいす東京に寄付されます。読み終わった本などを処分しようと思っているみなさま、どうぞご協力をお願いします。



チャリボンで
寄付

ふれいす東京 2025年度 年間活動報告書

2026年5月21日発行

発行：特定非営利活動法人ふれいす東京
(Positive Living And Community Empowerment TOKYO)

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

TEL：03-3361-8964

Email：office@ptokyo.org



ふれいす東京ホームページ
<https://ptokyo.org/>



SNSなどはこちらから
<https://linktr.ee/PLACETOKYO>

編集：穂吉洋子

デザイン：新藤岳史

印刷：株式会社翔美



認定NPO法人 ふれいす東京
<https://ptokyo.org/weare>

あなたのアクションが誰かの力に!